

憲法を守り生かし、子どもたちが安心して学べる学校教育の確立と ゆきとどいた実験・実習教育を実現させましょう

「どの子にもわかりやすい実験・実習教育をめざして」ここ京都市で開催された、第26回全教実習教員部全国学習交流集会は、組織の違いをこえ全国から24組織57名が参加しました。

本集会では、全国の実習教員が教育の専門職として奮闘している様子や、日頃職場で抱えている問題などを交流しあい、今後の実習教員部運動をより発展させるものとなりました。

大企業優遇とアメリカ追随を唱え、「戦争する国づくり」に向け強行姿勢を崩さない安倍政権は、国民生活の切り下げと弱者を切り捨て、「環太平洋経済連携協定（TPP）・安全保障関連法案・年金制度改革法案・特定機密保護法・介護保険法改正案・共謀罪（テロ等準備罪）」と、数の力による暴挙ともいえる強行採決を繰り返しました。

しかし、原発ゼロや安全保障関連法案廃止運動で全国に広がった、「安倍政治を許さない」国民世論のうねりは、安倍政権打倒をめざす市民と野党の共闘に大きく発展し、東京都議会議員選挙や仙台市長選挙では自民党政治に「NO」を突きつけ、国民不在の政治に審判を下しました。

今こそ「戦争する国づくり」ではなく、現行の平和憲法を守り生かし、国民が安心して暮らせる平和な社会の実現に向けたとりくみをすすめていきましょう。

「【教えにくい】【指導しにくい生徒にはワケがある】—高校の特別支援教育とは—」と題した、谷口藤雄氏による講演では、学校教育法施行規則改正により2018年度から実施される「通級による指導」への対応にあたり、一人ひとりに応じた支援とともに、自立を促すための指導方法や、ゼロトレランスからの脱却、さらに原点は入学させた生徒を必ず卒業させて社会へつなげることが、学校のあるべき姿だと説明されました。

分科会では、わかりやすい実験・実習教育の実践紹介や、参加者が実際に手軽な理科実験を体験し、学ぶことの楽しさについて触れました。また、さまざまな活動により子どもたちが成長していく中で、私たち実習教員がどのように関わっているか、職業科における実験・実習教育の充実では、教職員の労働安全衛生管理体制の確立に向けたとりくみをどのようにすすめればよいのか、さらには、実習助手制度改革実現に向けた運動のすすめ方や、組織拡大の重要性について活発な意見交換がされました。

今年から、新たに分科会として位置づけた障害児教育では、「通級による指導」の導入実施に向けて、普通高校に勤務する私たちがどのように対応していけばよいのかという不安に対し、支援学校の方々から、「特別な支援を必要とする子どもたちとの対話や接し方では、心にゆとりをもって対応することが重要である」と、実践にもとづく対応事例の紹介があり、子どもたちが安心して学べる学校教育の確立に向けて議論を交わすことができました。

教育の目的は、人格の完成をめざし、平和な国家と社会の形成者を育むことです。

私たちは今集会で学んだことを糧に、子どもたちが安心して生きいきと学ぶことができる「ゆきとどいた教育」の実現に向けて、教職員・父母・国民と共同のとりくみをすすめていきましょう。

2017年7月31日

第26回 全日本教職員組合 実習教員部 全国学習交流集会